

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 希望のシンボルをいつまでも……

附属幼稚園のシンボル「ジャックと豆の木」のからくり時計は、平成三年

に六十周年を記念して寄贈・設置されました。今年の十一月で満二十七歳です。長い年月風雨に晒されながらも温かく子どもたちを見守り続けてくれた時計ですが、昨年徐々に、からくりの扉が閉まらなくなり、今夏あたりからはメロディーが流れなくなつて、今では子どもたちが見上げる姿は見られなくなつてしまいました。かろうじて動いている時計が止まるまでの命として、このままにしておくことも考えましたが、

時計を贈つて下さった方々の思いや、これを見上げて育つた卒園生の思いを察し、また平成から新たな年号に代わるこの節目の年を、二十七年前の姿で超えさせたいという自身の勝手な思いから、九十周年間近の今年度、時計の修理とオブジェの再生に踏み切りました。

二十七年前と言えばバブルの時代。各地でこの様なシンボル時計が盛んに造られたといえます。しかし、今もまだ時を刻み続けている時計はいくつ残っているでしょうか？そんな中、業者さんは何とか手を尽くして部品を調達して下さいるのだそうです。従つて、修理代は決して安くはないのですが、後援会のご理解とご協力によって実現できます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



さて、「なぜ『ジャックと豆の木』なのだろう？」昨年四月、着任したての私は、存在感の半端ないこのオブジェに圧倒されるとともに不思議に思いました。そして、この園長便りの第一号に「附幼のシンボルに寄せて」との小記事にしたのを覚えています。今回修理するに当たつて、もう一度、時計に込められた当時の関係者の思いを、今、園児として、その保護者として、職員として附属幼稚園に関わる全ての方々に知つておいて頂きたいと思ひました。これは「附幼60年史」（大分大学教育学部附属幼稚園創立60周年を見守る会）の中の当時の園長後藤靖宏先生の「創立六十周年を迎えて」からの引用です。



【60周年記念誌より】

（前略）本年を記念して「創立六十周年を見守る会」から御寄贈いただいた「からくり時計」は、大学当局のご好意によって見事な「ゆめの時計台」に結実しました。幼児教育の場に相応しく、夢と冒険の物語「ジャックと豆の木」に模して建てられたこの時計台は、二十一世紀を担う子どもたちの洋々たる前途を祝福し、今を励まし、夢をはぐくむ「希望のシンボル」として、子どもたちの心に深く刻み込まれ、そのメロディーは永久の響きを奏でるであります。（後略）

時計の修理は遅くとも来年の一月初めには終わるとのこと。子どもたちとともに、楽しみに待ちたいと思います。

